

令和2年度 岡山県学力・学習状況調査結果 結果と今後の取組について

◆学力状況 平均正答率【対象：小学校3・4・5年生 中学校1・2年生 単位 %】

(1) 小学校

Table showing academic performance data for elementary school students across various subjects and grades, including national averages and comparison with other regions.

(2) 中学校

Table showing academic performance data for middle school students across various subjects and grades, including national averages and comparison with other regions.

学力状況の成果と課題

【小学校 成果】

- ・3、4年生では全国の前年正答率を上回った。低学年(1年～3年)で市独自の学力調査を実施し、早期からつまづき解消に取り組む、定着を図ってきたことが要因として考えられる。
・国語では、「書くこと」の領域において改善が見られた。書くことを取り入れた授業改善や週末課題に条件作文を課す等の取組を行った成果と考えられる。

【中学校 成果】

- ・英語では、課題としていた「書くこと」の領域において全国の前年正答率を上回り、思考・判断・表現力が問われる「活用」の問題においては、全国及び県の正答率を上回った。「書くこと」「話すこと」等、アウトプットを意識した活動による授業改善の成果と考えられる。
・2年生の国語、数学においては、同一集団の経年比較で全国正答率との差が縮まった。書く力の育成に教科を超えて取り組んだり、関数の領域の問題に「チャレ」等で継続して取り組んだりしたことが要因と考えられる。

【小学校 課題】

- ・5年生では、同一集団の経年比較で、全国正答率との差は縮まったが、算数の活用問題は全国の前年正答率より低い。記述問題に依然課題があると考えられる。国語、算数ともに記述問題の無解答率については、県に比べてやや高い。(国語+2.3%、算数+4.2%)

【中学校 課題】

- ・数学において、1、2年生ともに、記述問題に課題があった。学力調査で出題されているような活用問題に挑戦する場面が十分確保できていないためと思われる。記述問題において、無解答率は、近年改善しているが、県に比べ高い。学習集団が2極化傾向にあることも考えられる。
・数学において、1年生は、「数量や図形についての知識理解」、2年生は、「資料の活用」で正答率の差がみられ、定着のための補充が十分ではなかったと思われる。
・国語において、「読むこと」に課題がみられた。文章の構成や展開をとらえることが不十分であると考えられる。

小中連携の取組

- ①学力向上 ②生徒指導の充実 ③中1ギャップの解消
・岡山県・全国学力学習状況調査の分析を基にした授業改善の取組と中学校ブロックで、児童の実態や課題の共通理解、指導方法の確認をし交流を図る。
・くらしのきまりや生活規律の徹底を図る。(各ブロックごとに)
・新入生「春休みの課題」の効果的な利用。
・授業参観や出前授業によるきめ細やかな実態把握と情報交換。
保護者・地域への理解・協力を求めること
・家庭学習のスタンダードを基に、家庭学習を可視化し学級懇談や個人懇談で協力を得る。
・自主学習への取組を通して、予習と復習の意識付けを行う。
・「児童生徒の家庭生活実態調査」や「チャレンジハッピーデー」の取組を通して生活習慣を見直し、学習習慣の定着につながるよう家庭の協力を得るようにする。
・学校での取組や児童・生徒の姿を掲示したり通信などで発信したりして情報を伝える。
・地域ボランティアの方に協力してもらい、体験活動に取組を積極的に行う。

◆学習状況 【対象：小学校5年生 中学校1・2年生】学校質問紙において特徴が見られた項目

★国語の授業は、分かっている(肯定的回答)

Table showing survey results for Japanese language lessons, categorized by grade level and region.

★算数(数学)の授業は、分かっている(肯定的回答)

Table showing survey results for Math lessons, categorized by grade level and region.

★英語の授業は、分かっている(肯定的回答)

Table showing survey results for English lessons, categorized by grade level and region.

★家庭学習の時間(1日当たり1時間以上)

Table showing survey results for home learning time, categorized by grade level and region.

★自分には、よいところがあると思う(肯定的回答)

Table showing survey results for self-perception of strengths, categorized by grade level and region.

★学習(月～金)、1日当たりテレビゲーム(コンピューター・携帯型・スマートフォンを含む)の時間(1日1時間以上)

Table showing survey results for TV game time, categorized by grade level and region.

学習状況の成果と課題

【成果】

- ・「地域の行事に参加する」児童生徒の割合が高い。各校の挨拶運動等、保護者、地域の人との協働による取組が進んだことが要因と考えられる。
・家庭学習に取り組む時間は、経年比較すると、年々どの学年も上昇してきている。教員が、家庭での学習方法について具体的に指導し、児童生徒の意識を高める取組による成果と考えられる。

【課題】

- ・「国語の授業は分かっている」の項目で肯定的な回答が低下した。コロナ禍の影響により、ペア学習やグループ学習による対話的な学びが困難な状況による影響が考えられる。
・各学校では、学習規律の徹底に取り組んでおり、5年生と中学2年生は県と比較して差が縮まった。しかし、中学1年生については、低下している。4月の臨時休校により、新しい学習環境の中で、学習規律を整える期間が不十分だったと考えられる。
・家庭学習の時間は県と比較して差があり、課題である。「家庭で全くない」と回答している児童生徒も多い。ゲームやテレビ視聴時間が増加している影響が考えられる。
・「自分にはよいところがあると思う」の項目で、肯定的な回答がやや低下した。地域や学校での児童生徒の活躍の場が少なかったこと等が要因として考えられる。
・平日、1日に2時間以上ゲームをしている割合は、学年が上がるにつれ、増加する傾向があり、深刻な状況が続いている。スマートフォンの所持率の増加や生活習慣の変化が要因と考えられる。

今後の取組

【教育委員会】 ※は中長期的に取り組むこと

- ・課題校については、12月に教育長との意見懇談会を実施し、課題と今後の取組の共有を行う。
・各校における授業改善や「学びのサイクル」(授業・家庭学習・確認テスト・補充学習)の取組の徹底と確認がすすめられるよう学校の課題と今後の取組について把握し、取組が不十分な学校については支援していく。
・小学校1年生から中学校2年生まで、11月～12月に「学力定着状況確認テスト」問題を実施し、成果と検証を行い、学校へ情報を提供する。
※校内において学力向上対策を進めている担当者を中心に、調査の課題を明らかにし、「身につけさせたい力」を明確にした授業づくりが進められるよう、調査問題の効果的な活用や読解力を育成する指導の研修を行う。
※指導主事は、授業改革推進リーダー及び推進員とともに、説明文の指導について具体的な指導方法を資料で示し、市内へ広めていく。
※低学年での学びを充実させるために、津山市独自の学力調査小学1～3年生の実施(11月～12月)を継続し、つまづき解消を図ると共に、応用問題を含む「げんぼくんプリント」を引き続き提供し、思考力の向上を図る。
※家庭での学習時間及びゲームやテレビ視聴について、今後も、校園長会議や保護者向けの「親学講座」などで情報を発信し、情報モラル教育やメディアコントロールの取組を推進する。

【各学校】

- ・個に応じたプリントが作成できる「問題データベース」や「web評価支援システム」の活用を全校実施する。
・学力調査の結果について、個別の課題を児童生徒や保護者に丁寧に説明し、課題意識を共有し、学校と保護者が協力して児童生徒の学力向上に取り組む。
・「児童生徒アンケート」「学校アンケート」等を活用した評価を行い、授業改善や「学びのサイクル」(授業・家庭学習・確認テスト・補充学習)の具体的な取組内容の見直しを図る。
※コロナ禍で低下している児童生徒の自己肯定感を高められるよう、学校行事や自治活動の中で、様々な役割を担って活躍できる場の設定を行い、励ましたり賞賛したりしながら経験を積ませ、自信をつけていく。
※家庭学習では、自主学習ノートの好事例を校内で見える化するなど、課題に主体的に向き合えるような家庭学習の出し方、評価について研究し、児童生徒の取組に対する意欲を高められるよう改善策を立てる。
※家庭での学習時間及びゲームやテレビ視聴について、必ず、学年に応じたメディアに関する授業を行い、児童生徒の意識を高める。また、異校種やPTAとも連携し、特別活動やPTA総会、学級懇談、個人懇談等で家庭学習やゲームやテレビ視聴について話題にし、地域・家庭を巻き込んだ取組を行っていく。